

特色3 主権者として、ともに生きる力を育む教科書

1 地理的分野とSDGs

世界地誌の学習（p.43-127）では、**SDGs（持続可能な開発目標）**の17の開発目標と関連する**地球的課題**を扱っています。例えば、ヨーロッパ州の学習では「環境問題」を掲げ、これと関連するSDGsの目標を導入・まとめのページで提示することで、持続可能な視点を意識しながら学習が深まるように工夫しています。また、特設ページでも関連する開発目標を提示し、生徒がその関連を意識するよう促します。

5 地球的課題とSDGs

SDGsとは、2015年に国連で採択された、2030年までに国連加盟国が達成するために掲げた目標のことです（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）。人間、地球そして繁栄のための行動計画として、次に示す17の目標などで構成されています。地理的分野の学習では、第2編「第2章 世界の諸地域（p.43～127）」の中で、六つの各州で**地球的課題**を取り上げます。各州の地球的課題が、SDGsに示された17の目標の何と関係しているか考えましょう。17の目標は、各州の**導入**や六つの**特設ページ**にも示されているので注意しましょう。



1

〈地球的課題・ラインナップ〉

◇人口問題（アジア州）

中国を例に p.50-51

◇環境問題（ヨーロッパ州）

デンマーク、スペインを例に p.72-73

◇人口問題、食料問題（アフリカ州）

アフリカ全体を例に p.82-87

◇多民族の共存の問題（北アメリカ州）

アメリカ合衆国、カナダを例に p.100-101

◇環境問題、都市問題（南アメリカ州）

ブラジル、南アメリカ全体を例に p.108-113

◇多民族の共存の問題（オセアニア州）

オーストラリアを例に p.122-123

▲ 巻頭2

① 「地球的課題とSDGs」【巻頭2】

SDGsとは何かを確認し、17の目標を提示します（二次元コードから動画が見れます）。

② 導入ページ「（〇〇州）で学習する地球的課題」

写真資料・関連する目標などから関心を高め、該当ページに導きます。

③ 本時の該当ページ

各州の地球的課題について学習内容を振り下げて扱います。

④ まとめページ「学習のまとめと表現」
関連する目標を再度明示し、3STEPで振り返りを行いながら地球的課題についても整理していきます。

デンマーク、スペインなどを例に p.72-73

⑤

社会的な課題を多面的・多角的に捉え、考察できる内容構成

現代や過去の社会的事象について、生徒が資料を的確に活用しながら多面的・多角的に考察し、情報を批判的に読み解いて公正に判断する力を養うことができます。

2 領域をめぐる問題

二つの見開き（4ページ）にわたり、**日本の領域**に関する基礎的な知識と**北方領土、竹島、尖閣諸島**という日本の領土をめぐる周辺国との対立・現状について学習します。多くの資料だけでなく、丁寧な記述で理解が深まります。



2 日本の国土の広がり 日本の領域はどこまで

学習課題 日本の領域にはどのような特色があるのでしょうか。

▲ p.18

日本の国境をめぐるさまざまな動きを捉える

北方領土、竹島、尖閣諸島については、これまでの動きや現状について豊富な写真資料とともに記述しています。さらに、位置関係が捉えやすいように、日本海を中心に描いた地図を掲載しています。【p.20-21】

地理の窓

宗教をめぐる共存と対立

中東地域に位置する都市、エルサレムは、キリスト教、イスラム教、ユダヤ教の共通の聖地です。そこでは、アラビア語を共通の言語として、異なる宗教をもつ人々が平和に共存してきました。しかし第二次世界大戦後、イスラエルの建国により、パレスチナに住んでいた70万人をこえるイスラム教徒（パレスチナ人）が故郷の地を追われ、難民（p.290）となりました。2020年現在、パレスチナ難民はその3世や4世まで含めると620万人をこえ、パレスチナ自治区（ヨルダン川西岸地区、ガザ地区）のほか、隣国のヨルダン、シリア、レバノンやその他の国々で困難な生活を送っています。このパレスチナ問題は、同じイスラム教徒の苦しみとして共有され、ユダヤ教徒やキリスト教徒への反発に結びついています。

地理の窓

ウクライナ問題

ウクライナでは、EUとの結びつきを強めたい人々と、ロシアとの関係を深めたい人々との間で、議論が繰り返されてきました。2014年、ロシアの軍勢力を背景に、親ロシア派の人々はクリミア共和国（ウクライナの一部）の独立を宣言し、ロシアへの併合を求めましたが、欧米諸国は強く反発しています。2022年2月、ロシアはウクライナに対して軍事行動を開始し、多くの犠牲者が出ています。

▲ p.75

▲ p.41

日本の国土の広がりから

日本の領域の特徴を捉え、領土・領海・領空の区分など、基礎的な知識をコンパクトに学習します。【p.18-19】



4 南東を上にして、日本海周辺を囲んだ地図。地図中で、北方領土、竹島、尖閣諸島を確かめよう。

し交流は2022年9月以降、ロシアにより停止されています。

竹島と尖閣諸島

業を行ってきました。1905年に政府は、竹島を閣議決定に基づき露領に編入し、日本固有の領土としました。

1952年以降、韓国が竹島を自国の領土として主張し、現在まで不法に占拠し続けています。日本はこれに抗議を重ねるとともに、国際社会の場で話し合いを提案していますが、韓国は受け入れていません。

尖閣諸島は、1895年に沖縄県に編入された日本固有の領土です。第二次世界大戦後には、アメリカ合衆国の施政の下に置かれましたが、1971年に沖縄返還協定が結ばれ、翌年日本に復帰しました。尖閣諸島は、アメリカ合衆国の施政の下にあった期間を除いて日本が領有し、有効に支配を続けてきました。しかし、1970年代から、周辺海域に埋蔵されているとされる資源をめぐり、中国が領有を主張し始め、2012年、日本は島々の大半を国有化しました。近年、中国船が尖閣諸島周辺の日本の領海や接続水域にたびたび侵入する事態が生じています。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて

平和的

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて

平和的

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて

平和的

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて

平和的

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて

平和的

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて

平和的

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて

平和的

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて

平和的

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて

平和的

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて

平和的

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて

平和的

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて

平和的

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて

平和的

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて

平和的

3 今日的な話題を多面的・多角的な視点から捉える

イスラエルとパレスチナの対立（p.41）、ウクライナ問題（p.75）、新型コロナウイルス感染症（p.183）などの今日的な課題は、立場や場面によって視点が大きく異なります。情報を批判的に読み解き、多面的・多角的に考察する力が身につくように工夫を凝らしています。